六ヶ所村立郷土館主催

企画展　弥生時代はあったのか？

～2，000年前の六ヶ所村～

あ　い　さ　つ

約2,900年前に北部九州で始まった稲作が、約2,300年前には青森県に伝わり、弥生時代を代表する遠賀川系土器と続縄文土器の影響を受けた砂沢式土器が、青森県全県に広がりこの六ヶ所村の遺跡からも出土しました。弥生時代前期の砂沢式土器から中期の田舎館式、大石平Ⅵ群土器、中期末の大石平Ⅰ式（念仏間式）、後期の続縄文文化の恵山式や後北式の土器などが、多数出土しています。また、約2,300年前の弥生時代前期前葉から後期までの大石平遺跡からは、3期にわたって建てられた住居の遺構（ムラ）も検出されています。はたして、この六ヶ所村にも弥生人がやって来て、集落を形成していたのでしょうか？

今回の企画展では、弥生時代の六ヶ所村にあった遺跡と各年代を代表する土器を取り上げ、約2,000年前の六ヶ所村の様子をご紹介いたします。六ヶ所村の弥生時代を、「知って、体感して」いただければ幸いです。

最後に、この企画展をとおして、六ヶ所村の魅力を「発掘・発見・発信」につながることを願っております。

砂沢式土器（浅鉢）　弥栄平（4）遺跡

六ヶ所村立郷土館指定管理者
一般財団法人六ヶ所村文化振興公社
六ヶ所村立郷土館長　鈴 木　浩